

令和2年度 第3回 狭山市行財政改革推進委員会 会議録

開催日時：令和2年11月6日（金）13時30分から15時00分

開催場所：狭山市役所 7階 701,702会議室

出席者：廣川会長、倉島副会長、金子委員、栗原委員、神月委員、齊藤委員、
外山委員、山口委員

欠席者：後藤委員、服部委員

事務局：木村総合政策部長、栗原総合政策部次長兼基地対策課長、
田口課長、山岸主幹、加藤主任、沼田主事補

傍聴者：1名

議 事

- (1) 行政評価について
 - ア 評価対象事務事業の概要
 - イ 評価方法の確認
 - ウ 評価結果の点検
- (2) その他

〔要 旨〕

- (1) 行政評価について

以下のとおり審議を進めた。

行政評価を、「ア 評価対象事務事業の概要」、「イ 評価方法の確認」及び「ウ 評価結果の点検」の3つの側面から捉え、行政経営課が所管する「行政評価実施事業」における事務事業の内容と一次評価の結果について、事務局より一括説明を行い、意見及び助言等を聴取した。
- (2) その他
 - ・今年度の行財政改革推進委員会については、本日の会議をもって終了とし、来年度の予定等については改めて事務局より連絡させていただく旨を報告し、確認いただいた。

[議事についての質疑、意見等]

議事(1) 行政評価について

- ◇ 行政経営課の所管する「行政評価実施事業」について、「ア 評価対象事務事業の概要」、「イ 評価方法の確認」及び「ウ 評価結果の点検」の3つの側面を捉え、その内容等を事務局より説明。
- 委員 行政評価を実施する自治体が減少してきているとのことだが、その理由は、事務局 行政評価以外の手法を用いた行財政改革を推進しているからではないかと考えている。
- 委員 現在の行政評価の手法は、本来、数値化が困難な内容を、フレームを用いることで数値に置き換えた評価をしているが、事業の効率性においては、担当者によって捉え方が変わってくることから、基準を定め、統一した評価を行う必要がある。
- 委員 評価フレームについて、それぞれの「要因」の数や内容にばらつきがあるように感じるが、どのように設定しているのか。
- 事務局 評価フレームの「要因」は、次長職にて構成された庁内評価委員会で作成し、毎年度見直しを行い改善に努めている。
- 委員 事業によっては、評価フレームの「要因」の数だけが問題ではなく、内容の重さにも違いがあるのではないか。
- 事務局 評価作業自体を分かりやすいものにするため、評価フレームを導入し、該当する「要因」の数により、評価に導く手法を取り入れた経緯がある。ご指摘のとおり、「要因」の数や内容等について見直す必要があると考えている。
- 委員 PDCAマネジメントサイクルに基づいて「評価」は重点的に行われているが、その後の「改善」と「計画」に繋がっているかが見えてこない。
- 事務局 前年度の一次評価にて「方向性」が「改善・効率化」となった事業については、翌年度の一次評価の際に事務事業評価表の「見直し実績」を報告することとなっている。
- 委員 評価から導かれた具体的な改善が「見直し実績」ということだが、その「見直し実績」は、次年度の予算等に反映されているのか。
- 事務局 所管課では、次年度に向けその年度中から改善、効率化が図られ、事業終了後の翌年度に「見直し実績」を報告する流れになっている。予算編成に係る事務は5月頃から始まり、一次評価は例年6月頃に実施していることから、「見直し実績」の内容をそのまま次年度予算に反映するのは難しい状況である。
- 委員 事業の継続や予算の増減等に影響するものであるため、評価結果の予算への反映については、確実にお願いしたい。
- 委員 「改善・効率化」は、予算を削減することと考えがちだが、事業の改善に係る新たな手法の発見や、新たな行政需要が見込まれるなど、予算の拡大に繋がるような評価の仕組みも必要であると考えている。

- 委員 効率化に関して、二つの問題がある。一つは、効率を上げれば上げるほど職員の負担の増加に繋がるという懸念、二つ目は、効率性が低くても、その必要性の高さから行政が行わなければならない事業もあるということ。これらの問題を拾い上げることができるフレームの構築が必要となる。
- 委員 行政が行う事業は毎年度同様の事業も多く、実態として、評価結果に何の変化もなく、形骸化してしまうおそれもある。行政評価を実施する年度に間隔を空けたり、評価対象を絞るなどの工夫をしておこなうのか。
- 委員 毎年実施している事業については、市職員の人事異動も毎年行われていることから、新たに配属された職員の意見や視点なども評価に盛り込むことができれば、より効果が得られるのではないかと。
- 委員 SWOT分析を活用した評価手法について、各所管はどのように捉えているのか。
- 事務局 評価作業における職員の負担が軽減され、評価結果を導きやすくなったとの声が上がっている。
- 委員 数値だけで終わらせるのではなく、改善したという実感が湧くような評価にしてほしい。また、評価に関する自由意見などについても盛り込んでいただきたい。
- 委員 様々な行政活動をアピールしていくことも、行政の「見える化」に繋がっていくのでは。「行政評価実施事業」についても、積極的な公開を行っていくべきである。
- 委員 事務事業評価表については、専門用語が多く分かりにくい。もっと市民を意識した表現を用いるよう心掛けてほしい。
- 事務局 今後の行政評価を進めていく上で、いただいた意見等は反映できるよう検討していきたいと考えている。

議事(2) その他

- ◇ 今年度の行財政改革推進委員会については、本日の会議をもって終了とし、来年度の予定等については改めて事務局より連絡させていただく旨を報告。
- 委員 質疑なし。
- 会長 事務局提案のとおり対応することとしてよろしいか。
→異議なし、了承。

以上